

1. 内政

▼フィラト内閣の総辞職後の動き

- ・26日、自由民主党、民主党及び自由党関係者による作業部会は、新しい与党連合結成に向けた合意案が完成に近づきつつあるとし、今後は最終的な結論を得るために党首間の協議が必要となる旨発表。一方、同日、ヴォローニン共産党党首は、同党は10月あるいは11月の繰上げ総選挙の実施を要求する旨発言。
- ・27日、自由民主党、民主党及び自由党は、新しい与党連合結成に向けた第一回の党首間協議を実施。
- ・28、29両日、ティモフティ大統領は、元与党連合AEI各党の党首と首班指名に向けた協議を実施。各党党首は、首相候補推薦に関する統一見解が得られていないとし、各党間の協議を行う時間が必要である旨発言。これを受け、29日、ティモフティ大統領は、4月5日までに各党間の協議を終了させるよう命じ、同4月5日に首班指名を行う意向を表明。

2. 経済

▼経済全般

- ・26日、ラザル副首相兼経済相代行は、IMFとの協力においてモルドバは3月31日までに達成する必要がある義務を果たすことが難しいため、700万米ドルの次回のトランシェを受けられない可能性があり、IMFとの協力プログラムの延期はモルドバにとってネガティブな結果を与えるであろう旨発言。
- ・29日、国家統計局は、2012年のモルドバの対外債務が

対前年比12.6%増の61億ドルに達し、特に民間セクターの債務が増加した旨発表。

▼再生可能エネルギー

- ・27日、ラザル副首相兼経済相代行は、本年末までに風力を活用した電力を利用するための最初の投資プロジェクトを計画中であり、2020年までに再生可能エネルギーを全体消費の20%に増加する計画である旨発言。

3. 外交

- ・26日、ラザル副首相兼経済相代行は、EUとのDCFTA交渉は最終段階にあるとして、6月に予定されているモルドバ・EU協力会議までに同交渉が終了し、仮署名される可能性がある旨発言。
- ・26日、フィラト首相代行は、ポンタ・ルーマニア首相と電話会談し、ヤシ・ウングェニ間パイプラインの建設を近日中に開始する旨確認。

4. 沿ドニエストル

- ・29日、ラヴロフ露外相は、ティラスポリへの露領事館開設は沿ドニエストルに居住するロシア国民の利便性向上のためであるとして、ロシアが同地域の独立を認める布石ではない旨発言。

5. 防衛

- ・26日、ストイアン総参謀長は、キシナウで開催されたモルドバ・NATO協議に出席、モルドバ軍の近代化、防衛分野に関する改革、地域安全保障等について議論。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)